

バドミントン部



1967(昭和42年) 春季リーグ戦平井克英、対日体大。国民体育館にて。



1942(昭和17年)・4・26 慶應バドミントン倶楽部、最初の対外試合(慶應対YMCA)。横浜YMCAにて。



1943(昭和18年)・7・4 日泰親善バドミントン試合(泰国留日学生対慶應)。東京大東亜体育館(現在の東京YMCA)にて。



1946(昭和21年) 戦後2度目の対外試合。慶應対横浜YMCA。横浜YMCA(港中学)にて。



1949(昭和24年)・11・27 慶應バドミントン倶楽部、第1回合宿、葉山にて。



1952(昭和27年)・11・25 第3回全日本学生選手権大会、優勝。神戸にて。



1954(昭和29年)・10・30 慶應女子インカレ初参加。準決勝にて郡山短大に敗れる。



1956(昭和31年) 秋リーグ戦。慶應女子初優勝。ドレメ体育館にて。



1958(昭和33年) 第3回アジア大会。日本代表として参加した越川啓(左より3人目)。東京にて。



1960(昭和35年)・11・23 インカレ団体、男子優勝祝賀会。山食にて。



1964(昭和39年) 第6回トマス杯インターゾーン(東京)日本代表選手、宮永武司(前列右端)



1967(昭和42年)春季リーグ戦複々葉健司・大崎俊次(現金原)対日体大。国民体育館にて。



1963(昭和38年)・11 OBと現役親睦旅行。江の島にて。



1967(昭和42年) 早慶定期戦。複北島(現松本)・川崎。日記記念館にて。



1979(昭和54年)・9・9 第27回早慶定期戦。日吉記念館にて。



1987(昭和62年) 春季関東大学リーグ戦対大東文化大、複戦訪隆博・加藤正裕。小豆沢体育館にて。



1987(昭和62年) 春季関東大学リーグ戦対大東文化大、諏訪隆博。小豆沢体育館にて。

1939・4 横浜YMCAに寄宿した山本孝二、佐藤保はYMCA体育主事広田兼敏氏の指導を受けてバドミントンを始める。やがて横浜在住の仲地幹雄、森友徳兵衛、諸岡良幸、寿祝高らも加わる。

1941・10 三田山上万来舎前広場に小泉塾長を招きバドミントンを披露。

1942・4 バドミントンクラブとして初の新入生部員募集を行う。/10・7 東京YMCAにて慶應義塾バドミントンクラブ創立総会を開催、会長に寺尾琢磨教授を迎え正式発足。文化団体連盟に加盟。

1943・7・4 在日タイ留学生と初の国際試合を行う。6-5にて惜敗。/新入生会員も増え、練習会も盛んになったが、戦争激化でクラブ活動中止。

1946・4 六角勉、森友(弟)が中心となり部員募集、クラブを再建する。戦後初の練習を横浜平楽小学校にて行い、その後横浜YMC

Aに練習場を移す。

1947 塾内対抗競技部新種目団体に加盟。練習場を幼稚舎体育館に移す。/10・4 関東大学リーグ戦を慶應・明治・立教の3校で開始。慶應が優勝。以後3年間7回連続優勝。

1948・4 男子高校バドミントン部創設。/5・8~9 第1回全日本選手権大会男子複で藤井光男・広田敏秀組が優勝。

1949・11・27 葉山にて初の合宿。OB組織の三田バドミントンクラブ結成。

1950・9 バドミントン部体育会加入。/11・24~25 第1回全日本学生選手権大会男子単で広田敏秀、男子複で広田敏秀・小宮淳宏組が優勝。

1951・12・16~19 第1回全日本大学、第2回全日本学生選手権大会で団体は慶應、男子単は広田敏秀、男子複は広田敏秀・小宮淳宏組が優勝し、全種目制覇。

1952・4 女子高校にバドミントン部創設。/

11・22~24 第2回全日本大学、第3回全日本学生選手権大会で団体は慶應、男子単は広田敏秀、男子複は広田敏秀・岡道明組が優勝し、全種目2連覇。

1953・5・10 早慶定期戦開始。大学男子で慶應が勝ち、以後11連勝。

1954・4 大学女子部創設。関東大学女子リーグ戦始まる。慶應3勝1敗にて2位。/9・19 早慶定期戦に大学女子、OBの部創設。

1954・10・30~11・3 第5回全日本学生選手権大会男子複で岡道明・越川啓組優勝。/11第3回トマス杯アジアゾーン予選(香港)に初出場の日本代表主将として岡道明が出場。

1955・8・17~22 第6回全日本学生選手権大会男子複で石田裕・越川啓組優勝。

1956・10・14~31 関東大学女子秋季リーグ戦で初優勝。

1957・6 第4回トマス杯アジアゾーン予選(コロンボ)日本代表選手として越川啓出場。



1990(平成2年)・9・9 第38回早慶定期戦、優勝。日吉記念館にて。



1987(昭和62年) 第1回ソ連国際ユース大会に日本代表として諏訪隆博出場(左側)。



1991(平成3年)・9・8 早慶定期戦、早大記念会堂にて。主将松井隆志。

1958・10 第3回アジア競技大会(東京)日本代表として越川啓出場。

1959・4 日吉記念館、体育館完成し、練習場として使用開始。

1960・11・22~23 第10回全日本大学選手権大会男子団体が慶應が8年ぶりに優勝。

1961 日吉記念館の練習コート位置を変更し、3面から4面となる。

1962・9・7 創部20周年記念式典を日吉にて挙行。/11・2~5 第13回全日本学生選手権大会男子単で宮永武司優勝。

1964 第6回トマス杯アメリカゾーン予選(メキシコ・バンクーバー・ビクトリア)に日本代表選手として宮永武司が出場。日本はゾーン優勝し、インターゾーン(東京)に初出場、3位となる。/5 関東大学女子春季リーグ戦に女子メンバー編成出来ず欠場。/9・13 第12回早慶定期戦大学男子の部で初めて敗れる。

1966 第5回アジア競技大会(バンコク)に日本代表監督として森友徳兵衛、選手として宮永武司が出場。第7回トマス杯オーストラレーシアゾーン予選(ダニジーン・アデレード)に日本代表選手として宮永武司が出場。日本は優勝し、インターゾーンに進出。

1967 第7回トマス杯インターゾーン(ジャカルタ)に日本代表選手として宮永武司が出場。日本第3位。

1972・6・18 創部30周年記念式典を日吉にて挙行。



1968(昭和43年) 第4回アジア大会(バンコク)男子団体3位。後列中央、森友日本チーム監督、後列右から2人目、宮永武司。

1976・8・27 韓国へ初の海外遠征を行い、慶應単独チームが韓国ナショナルチームと対戦。4-3にて勝つ。

1982・6・27 創部40周年記念式典を青山ダイヤモンドホールにて挙行。

1984・11 筑波大との交流試合開始。

1987・6 第1回ソ連国際ユース大会(ハバロフスク)に日本代表選手として諏訪隆博が出場。男子複で第3位となる。

1992・7・19 創部50周年記念式典を東京全日空ホテルにて挙行予定。



1976(昭和51年)・8・27 韓国へ初の海外遠征。韓国ナショナルチームに4-3で勝つ。